

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やホールに理念を掲示している。また、毎日、朝・夕の申し送りで職員が唱和し実践できるように努めている。	2階、3階の各ユニットの入口に理念と運営方針が掲げられている。ホールの中にも理念が掲げられており、職員は常に意識し日々の生活の中で対応している。理念に基づいた「行動指針」も作成され、今後はこの「行動指針」を唱和していきたいとの意向がある。会議の時だけでなく日常生活の中でも互いに確認し実践に移している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より、地域の皆様に挨拶するように心がけている。地域の行事に参加できるように努めている。また、お祭りの獅子舞などは施設で舞って頂いている。	赤い羽根募金や区費を納め、組長の方から広報誌等が直接届けられている。今年も1年風邪をひかないことを願いながら地域のどんど焼きに参加しお正月の飾り等を燃やしてきた。ほぼ毎月、歌のボランティアの訪問があり利用者とボランティアの馴染みの関係が出来ている。専門学校やヘルパー受講生の実習の受け入れやサマーチャレンジの学生の受け入れを行っている。隣接する地域密着型特定施設入居者生活介護施設と合同で行う祭りには町の獅子舞や地域の方も参加し賑わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の技量不足もあり、行っていないが研修等もあるので、参加し地域に広めて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の常時や、事故・ひやりハット等を報告し、地域の役員さんの意見を受け入れ実践できるよう努めている。	家族・区長・民生委員・介護(あんしん)相談員・市職員・地域包括支援センター職員で構成され2ヶ月に1回開催している。毎回、利用者の状況報告とヒヤリハット・事故報告を行いその他の議題は状況に応じて決めている。防災訓練に関し参加要請をしたり、防災訓練の反省、その指摘や提案等もあり改善に繋げている。当日に次回予定日を連絡し、その当月になり書面で郵送し参加をお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	苦情等日頃から、細かく連絡を取り合っている。また、介護保険の更新申請や認定調査も施設で行なっている。	市役所が近いので相談などに出向き話をしている。介護(あんしん)相談員は平成24年の暮れから1名となり相談員の方が時間内に半分ずつ各ユニットを訪問していただいている。市社協にも足を運びボランティアの受け入れについての相談をしている。介護認定変更の代行申請や調査員の来訪時にも情報提供などで協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていない。代替なものを考えて、チャイムなどを設置して対応している。常に職員に拘束による危険性について説明している。	玄関及び各ユニット入口の鍵はかけていない。また、エレベーターにも鍵は無く自由に使える。外出願望の強い利用者もいるが、見守りと行動を共にすることを基本とし実践している。ベッドの柵もしていない。ベッドより転落の危険のある方は布団を敷いて就寝している。転倒の危険のある方はセンサーの利用をしそれぞれのメロディーを使い分け事故にならないように対応している。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞などで虐待の情報を共有し常に確認している。また、施設内では、入浴時は、更衣時などに身体の状態確認を行って注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例対象者はいないが、今後外部研修等の機会があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、読み合わせを行い時間をかけ契約時十分に説明し確認しながら、理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回開催し意見・要望を受け入れており、面会時も情報提供し、職員にも申し送っている。毎月の新聞には、「新職員の紹介や次月の行事や入居者様の生活状況等を掲載して状況報告します。また、ブログの開示も行なっています。	家族会があり年3回開催している。家族へ年末のお掃除の依頼をし手伝っていただいている。今までは総会的な家族会の運営であったが、今年からは家族と利用者、職員とが一緒に食事をしたり、ふれあいを楽しめるような機会に変えていき、その中で話し合いも行っていきたいとの意向がある。「まゆ新聞」が毎月発行され家族へ送られている。面会に来られた家族には利用者の近況報告などを行い、家族と関わりを持つようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議・フロア会議で話し合いをしている。	毎月全職員で行われる職員会議は会社の管理者会議で話し合ったことの連絡やヒヤリハット・事故などの話し合いに充てている。また、フロア会議も月一回開かれ、利用者の情報の共有やプラン作成の意見交換の場としている。いずれも職員が交代で進行係をし、職員会議の議題も進行担当の職員が決め、事前に全職員に伝えている。業務で分からないことなど、お互いに聞きやすい環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施し、自己評価シートの作成また、職員の目標をかかげ、向上心を持てるよう実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に参加できるように努めている。今回は、指導者資格者による技術評価も受けました。また、同事業所内での職員研修も実施している。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などに参加し、交流したり情報交換等を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、今までの生活歴を把握し、不安の無いようにかかわり環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望をお聞きし、入所後は様子等を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用できるサービスを紹介し、相談しながら協力できるようサービスの手配等の協力を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態を共有し関係を断ち切らないように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望を家族に伝え、施設でできること、家族に協力していただけること等、調節しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの行事に参加することに努めている。また、ご家族様の面会もできるだけしていただけるようお願いしている。	今年のお正月には利用者の5分の1以上の方が宿泊や日帰り帰宅し、家族とのお正月を楽しまれた。年賀状も数人が手書きで家族へ出している。今後は年賀状を工夫し全員が出せるようにしていきたいと意欲を燃やしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行き来できるような関係づくりを支援している。また、新規入居者様も孤立せず打ち解けることができるよう対応している。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設の紹介やサービス等の情報を提供し援助している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、何気ない言葉に着目し職員で検討している。	言葉で思いを伝えられる方は10名程度であるが、伝えられない方についても毎日の生活の中で単語であたり表情、しぐさなどで判断している。居室の入口に表札が掲げられているが、利用者によっては「イヤ」という方もおり表札をひっくり返し分からないようにしている。利用者のもらった言葉を記録ノートに記入し、職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との会話の中で情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活パターンの把握や日常生活の中でその人の有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中から、会話を通じて、考えや気持ちを聞き、職員どうして意見交換し、さまざまな視野から把握している。	居室担当の職員が決まっていて、主に掃除や誕生日の対応などを行っている。利用者の状況変化などもフロア会議で伝えている。フロア会議で話し合い、計画作成担当者がプランを作成している。職員は毎日記録する「生活支援確認書」でプランの内容の確認が出来る。管理者による1ヶ月毎の評価も行われ、定期的な見直しに役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況を毎日確認しており、定期的に評価をしている。また、対応方法等を検討し改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活歴や家族状況等を把握した対応を行っている。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌のボランティアさんに定期的に月1回来所して頂いている。そのほか受け入れを依頼したがなかなかうまくできていない。機会があれば対応したい。今回は、梅を頂き、梅酒・梅酢けを作りました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の往診時の情報提供と状態変化時は連絡を常にとっている。また、受診の送迎等の協力を行なっている。	契約時にかかりつけ医、協力医の説明を行い、家族の希望で協力医への変更や今まで通りとする方など様々である。協力医による月2回の往診が行われ、予防接種も協力医により行われている。かかりつけ医での受診については基本的に家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるが、状態変化時は常に医師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会に行き状態の確認を行なっている。また、退院時は病院と退院後対応について話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族を交えて今後について話し合いを設けている。	利用者が体調を崩し病院へ入院後亡くなられたケースや他の施設に移られて亡くなられたケースはあるがホームで看取りを行った事例はない。「グループホームまゆ看取り指針書」と「看取り介護の同意書」が作られており契約時に説明を行い、その状態になった時に改めて家族と医師、職員で話し合いを持ち文書を取り交し意思統一するようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが実施していない。今後、救急法の研修会の開催を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しており、職員が全員対応できるよう努力している。非常食や防災頭巾を用意している。また、防災訓練時、地域の区長さんや自治消防の役員さんの参加して頂いた。	スプリンクラー、自動火災報知機、漏電火災報知機、室内消火栓等が備え付けられている。年2回の訓練を予定し、消防署に計画書を提出し実施している。昼間想定と夜間想定を交互に行っている。隣接の地域密着型特定施設入居者生活介護施設と合同で行うこともある。前回は単独で行い地元消防団の方や区長の参加もあった。車椅子の方は非常階段から職員が2名で対応し避難訓練を行った。職員への通報訓練も日を別にして行い、反省を踏まえ事務担当者のほうで一斉メール配信するように変更した。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護については玄関に掲示している。入居者様の呼びかたも「さん」づけて呼んでいる。また、人生の先輩であることを念頭に置き自尊心やプライバシーを損なわないよう対応している。	職員は利用者に対して丁寧な言葉遣いで対応している。利用者の動きに対して敏感に反応し対応する姿も見られた。	接遇について研修を行い利用者一人ひとりの意思を尊重しながら利用者本位のサービスが提供できるような取組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に寄添い、傾聴に努め、気持ちの確認を行なっている。また、意思表示ができない方は顔等の表情確認で読み取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時など、状態に合わせて時間をずらすなどして食事をして頂いている。日常も無理強いせず、本人希望に沿った生活支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服装にならないよう対応している。散髪もパーマを希望される方・毛染めをされる方など本人希望に沿った対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好みを聞いたり、食事作りも一緒につくり味見をしていただいたりしている。また、希望に沿って外食も実施している。	献立は管理栄養士が作成したものを使用している。配達される食材のほか、一部を利用者と一緒近所のスーパーへ買い出しに出掛けている。料理を手伝う方やソファに腰掛け作業を見守っている方など様々である。後片付けや同じテーブルの方の面倒をみる方もいた。全介助の方も一緒に「頂きます」の掛け声で食べている。食べ残しがあると職員が「もう少し食べて」と話しかけ、全部食べられた利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立表を参考にしてメニューを作っている。毎回、食事摂取量の確認を行なっている。量が少ない場合は補助食品等で対応している。検食簿で味付けや量等の確認も行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、入れ歯の方は職員が声がけ等で口腔ケアを行なっている。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方は2名いるが、できるだけトイレでの排泄を目指している。トイレで排泄しパンツ内の失禁を減らすようにしている。夜間もポータブルトイレで排泄し自立していただけるよう支援している。	基本はトイレでの排泄と考え支援している。オムツ対応の方やリハビリパンツの方、自立して布パンツ使用の方など様々な対応をしている。ハビリパンツの方の中にも時間で声掛けする方や表情や動きで声掛けする方など個々に対応を変えている。居室にポータブルトイレを置き夜間のみ使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、食材や体操等で便秘のならないようなもので対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間の入浴日を決めているが、そのほかにも本人希望時や排便があった時などに入浴をして頂いている。入浴時間も夕方を中心にしている。	1週間に2回は入っていただいている。訪問調査日は1月で寒く、テレビでも入浴中によるヒートショックで高齢者が体調を崩したというニュースが放映されていたが、脱衣場にはパネルヒーターが取り付けられていて寒さは感じられない。寝たきりの方も職員の二人介助で湯船につかり入浴している。同じ法人の運営する他のグループホームは温泉を使用しているので希望者が出向き温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝も希望者のみで無理強いはいしていない。夜間も、本人の生活習慣にあわせた時間で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は確認している。異変時は常に医師と連絡をとり支持に沿った対応を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日余暇の時間を設けて対応している。また、時間空いているときは常に入居者様とかかわれるようにしている。また、本人のできることを見つけ出し役割を見つけるようにしている。食事也希望を聞き外食などに出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は外出できるよう計画を立てている。食材の買い物も職員と一緒に出掛けている。外食も希望にそった計画を立て出掛けている。盆・暮れ等は家族に面会・外出等を呼びかけている。	年間の外出計画が作られ実行されている。季節の行事を考えながら初詣、お花見、七夕、紅葉狩り、日帰り温泉(同じ法人の他のホームのお風呂)などを楽しんでいる。外食も取り入れ、回転寿司やファミリーレストランに行っている。食材や行事で使う材料の買い出しにスーパーやホームセンターへ出かけ利用者同士レジに並んだりしながら買い物を楽しんでいる。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持制限はしていない。少額でトラブルのない程度でお願いしている。買い物に出掛けた時は、好きなものが買えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事業所の電話を使用している。年賀状を職員と一緒に書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに花を飾ったり、季節にあったかざりをしている。夕方からはホールを明るくし、室内の換気や温度管理に努めている。	訪問時は壁に大きな凧が飾られていた。季節ごとの飾り付けをし、見たり触ったりして肌で季節の移り変わりを感じていただいている。ホールやリビングはパネルヒーターとエアコン、加湿器が稼働し、気持ちの良い環境づくりがされている。昨年までホールに大きな炬燵を作っていたが利用者の立ち上がりが難しくなってきたため、ソファが置かれ空間が広くなり歩行も楽になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の他にソファを3台用意し、利用者様同士がかかわれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していたたんすや湯のみ等を用意していただき、今までと変わりのない環境作りに努めている。	居室には洗面台と収納庫がありベッドの方や布団を敷いて休まれる方など個々への対応がされている。自宅よりタンスや椅子などが持ち込まれ一人ひとりに合った居室作りがされている。誕生会の写真や家族の写真が飾りつけてある居室も見られた。居室ドアの下の面が少し削られた作りで室内の光で利用者のシルエットが感じられるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる」と判断したことはできるだけ手をださず、時間が少しかかっても本人の満足ができるように声がけ等で対応している。		